

第3章 市民意向の把握

1. 市民アンケート

本市民を対象に将来のまちづくり等に関するアンケートを実施しました。

(1) 住環境について

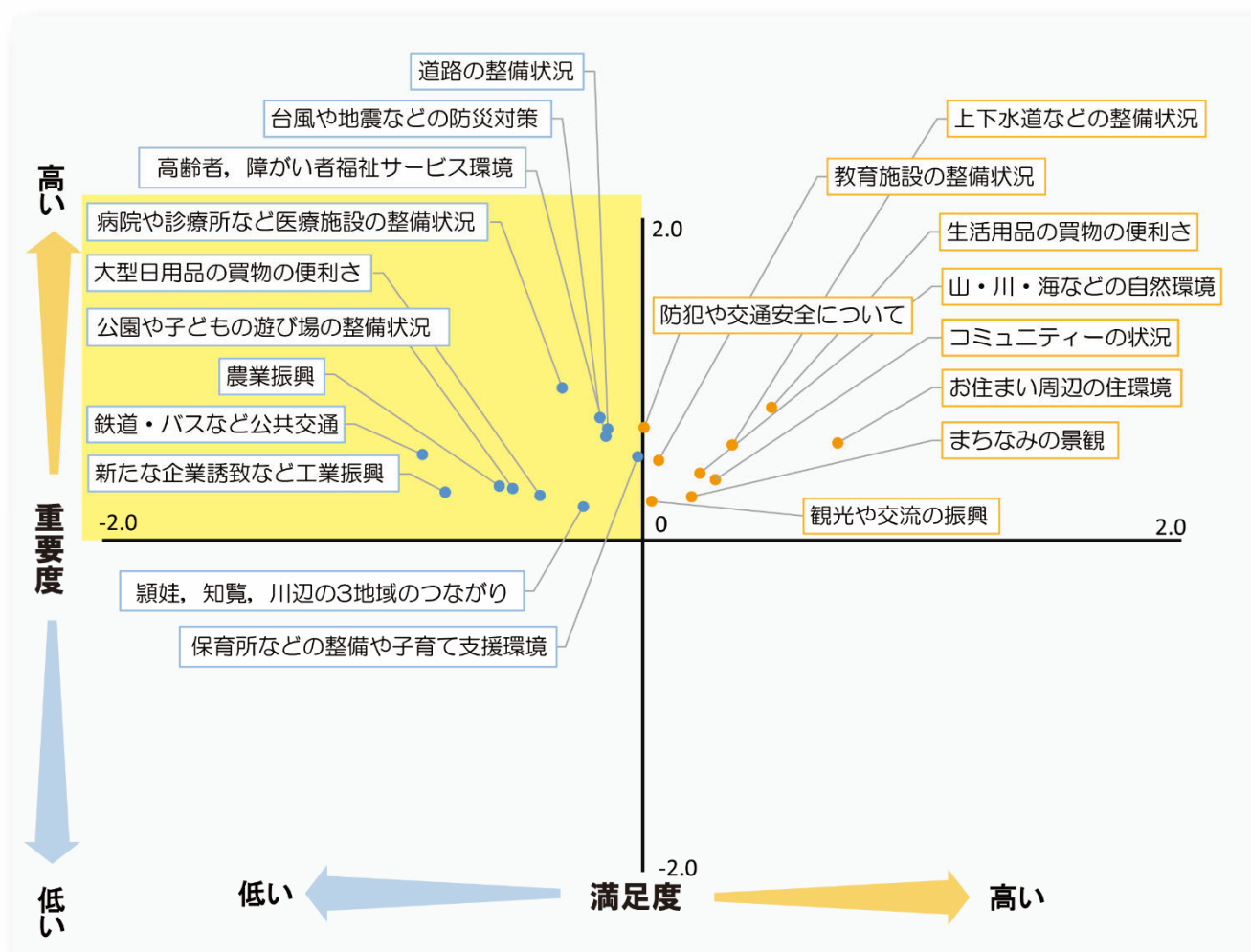
■周辺環境の満足度・重要度

市全域の満足度・重要度の分布を見ると、すべての項目で重要性の認識が高い状況となっています。その中でも、現状の満足度が低く、重点的な対応が望まれる項目が目立つ結果となりました。

地域別では、知覧地域および川辺地域において、継続的に推進すべき項目がやや多い傾向にあります。

3地域に共通して満足度が低い項目は、「鉄道・バスなど公共交通の利便性」、「高齢者・障がい者福祉サービス環境」、「新たな企業誘致など工業振興」であり、重要性の認識は高いものの現状の満足度は低く、重点的な対応が望まれています。

一方、「周辺の住環境」や「生活用品の買物の便利さ」については、満足度も高く、重要度も高いため、現在の水準を維持するための継続的な対応が望めます。



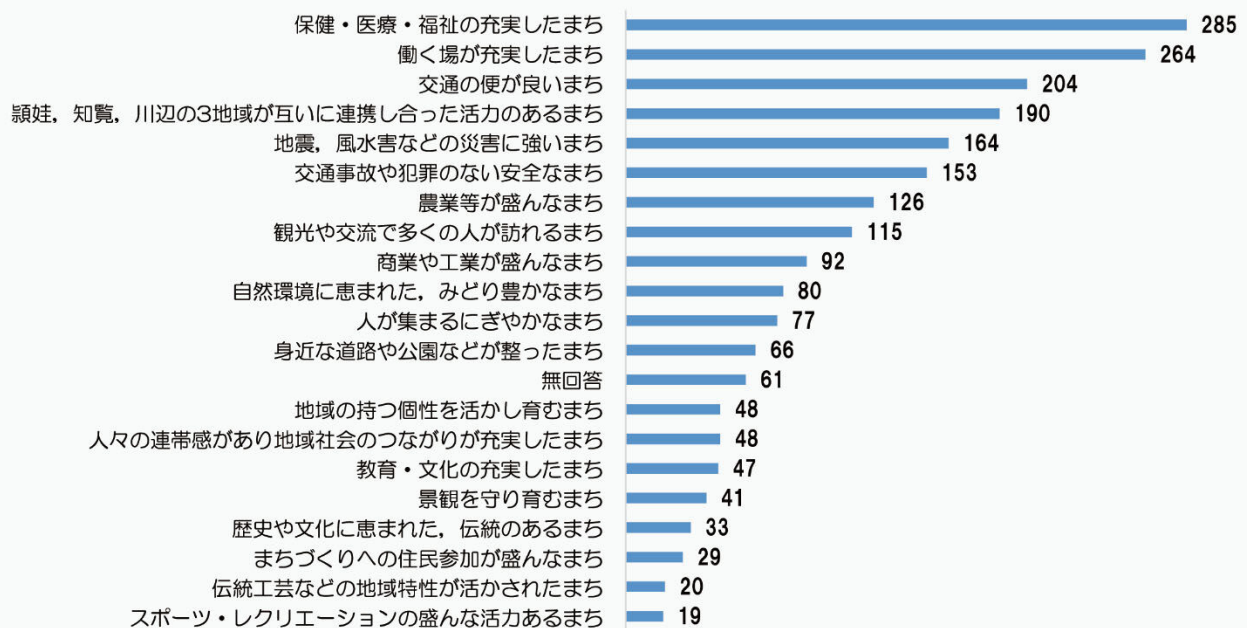
(2) まちの将来・これからの南九州市のまちづくり

■まちの将来像

市全体の結果では、「保健・医療・福祉の充実したまち」を望む回答が最も多くなっています。これは、高齢化の進行などを背景に、安心して暮らすことができる医療や福祉環境の充実に対する関心が高いことを示していると考えられます。

次いで、「働く場が充実したまち」を望む回答が多く、地域内での雇用機会の確保や産業の活性化に対する期待が高いことがうかがえます。これらの結果から、市民が安心して生活できる環境の整備とともに、地域で働く場の充実が重要な課題として認識されていることが読み取れます。

N=764

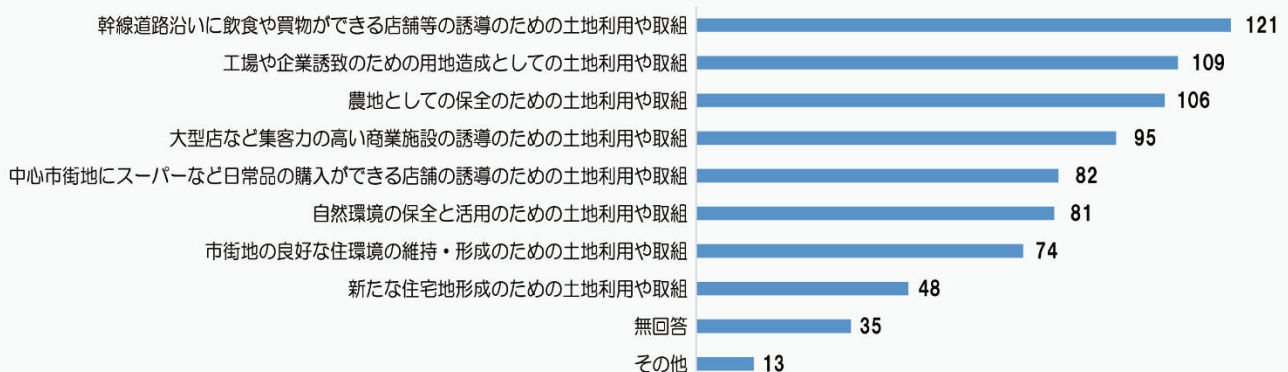


※市全域・地域別それぞれについて、各回答者が3項目を選択

■将来の土地利用について

市全域の結果では、「幹線道路沿いに飲食や買物ができる店舗等を誘導するための土地利用や取組」が121件と最も多くなっています。

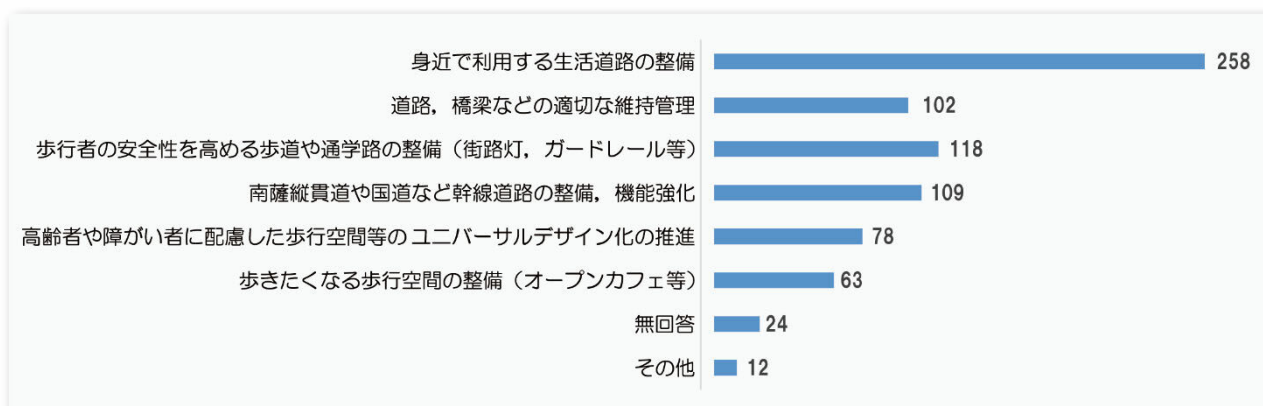
N=764



■将来の「道路交通施策」について

市全域および地域別の結果のいずれにおいても、「身近で利用する生活道路の整備」が最も多くなっています。このことから、日常生活における移動の利便性や安全性の向上に対する関心が高く、生活道路の整備が重要な課題として認識されていることがうかがえます。

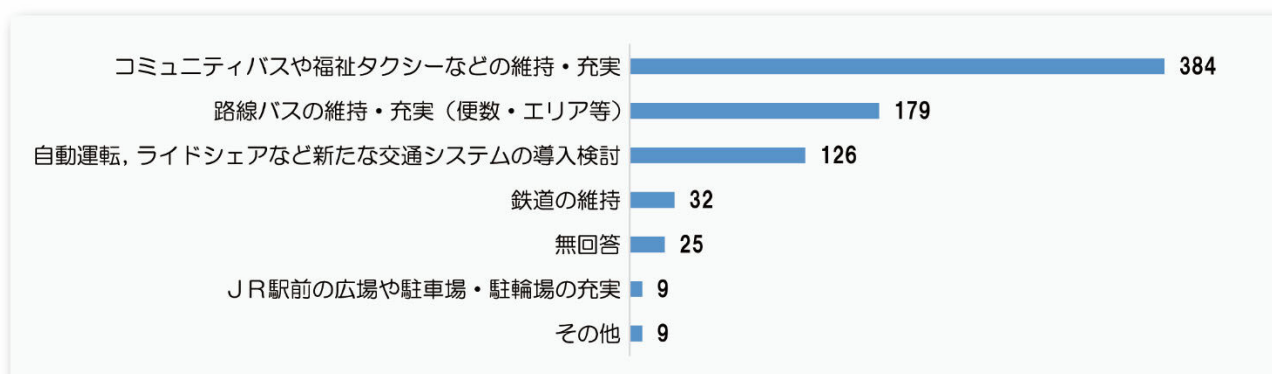
N=764



■将来の「公共交通」について

市全域の結果で最も多かったのは「コミュニティバスや福祉タクシーなどの維持・充実」で、次いで「路線バスの維持・充実」、「自動運転やライドシェアなど新たな交通システムの導入検討」の順となっています。一方、「JR 駅前の広場や駐車場・駐輪場の充実」については、回答数は比較的少ない結果となっています。

N=764

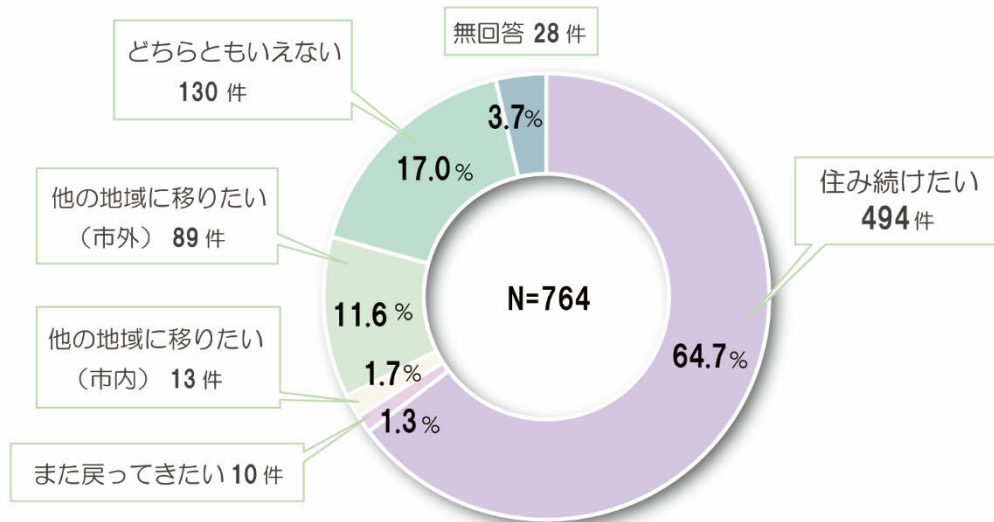


(3) 居住意向

■南九州市への居住意向

将来も南九州市に住み続けたいとの回答が494件（64.7%）と最も多い結果となりました。

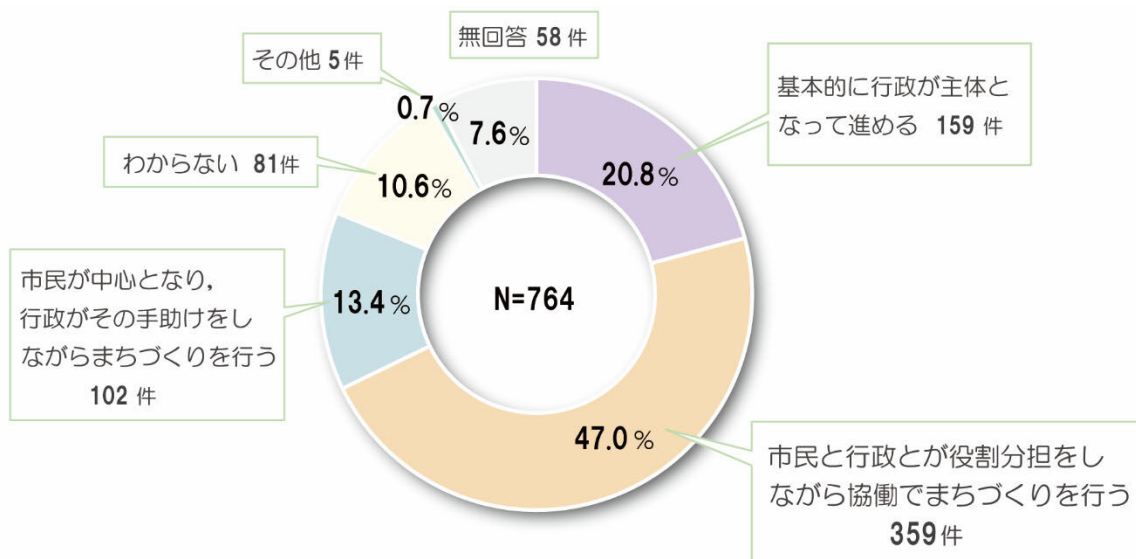
一方、「他の地域に移りたい」との回答は、市内、市外を合わせて102件（13.3%）あり、一定数の転出意向が見られます。



■これからのまちづくりについて

これからのまちづくりについては、「市民と行政とが役割分担をしながら協働でまちづくりを行う」という回答が359件（47.0%）と最も多い結果となりました。この結果から、市民と行政がそれぞれの役割を担いながら、連携してまちづくりを進めていくことへの期待が高いことがうかがえます。

次いで多かった回答は、「基本的に行政が主体となって進める」の159件（20.8%）でした。このことから、行政による主導的な取組を求める意見も一定程度あることが分かります。これらの結果から、今後のまちづくりにおいては、市民と行政が連携しながら取り組んでいくことが重要であると考えられます。



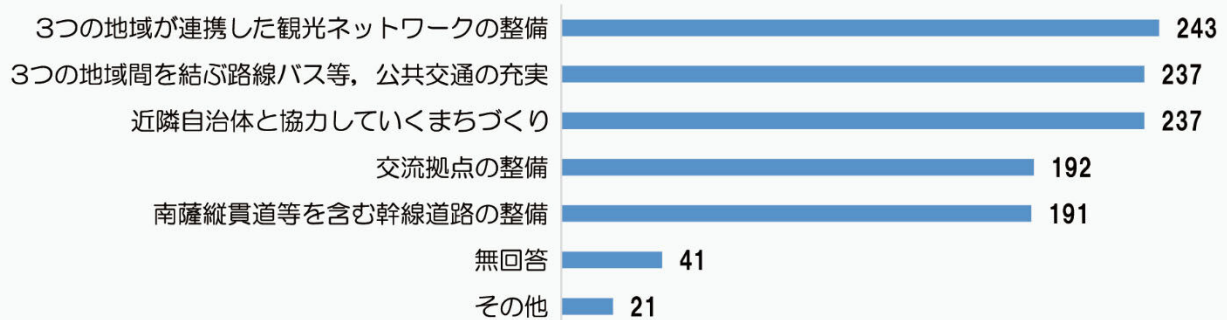
(4) 地域連携

■ 地域連携強化に必要なこと

地域連携の強化に必要な項目については、「3つの地域が連携した観光ネットワークの整備」が243件（20.9%）と最も多い結果となっています。一方、「3つの地域間を結ぶ路線バス等の公共交通の充実」や「近隣自治体と協力していくまちづくり」についても237件（20.4%）と、ほぼ同程度の回答数となっています。

これらの結果から、地域間の交流や連携を促進するためには、観光資源を活かしたネットワークの形成に加え、公共交通の充実や近隣自治体との協力体制の強化が重要であることがうかがえます。

N=764



※各回答者は最大2項目まで選択（複数回答）

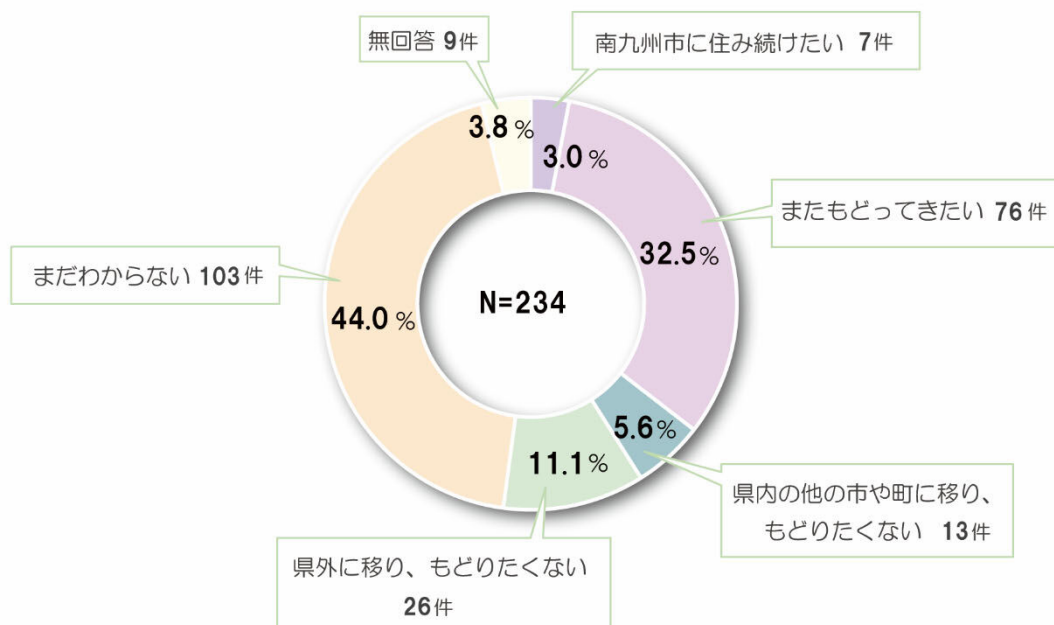
2. 中学生アンケート

南九州市内の中学校（鰐娃中学校・知覧中学校・川辺中学校）の生徒を対象にアンケートを実施しました。

■南九州市への居住意向

これからも南九州市に住み続けたいかの問いでは、「まだわからない」との回答が103件（44％）と最も多く、次いで「就職・進学で一時的に市外に移ることがあっても、またもどってきたい」が76件（32.5％）となりました。

このことから、将来の定住については迷っている人が多い一方で、将来的に地元へ戻りたいという意識も一定数あることがうかがえます。

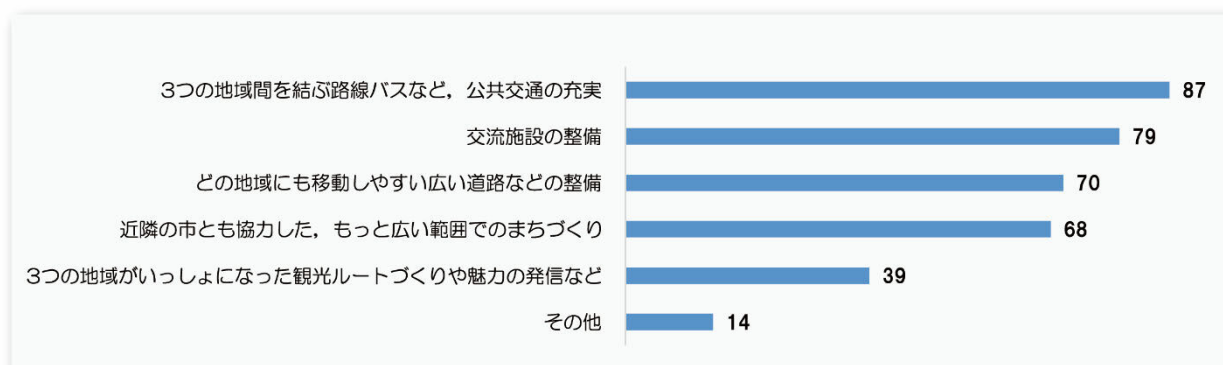


■これからの南九州市について

鰐娃、知覧、川辺の3地域のつながりに必要なものとして「3つの地域間を結ぶ路線バスなど、公共交通の充実」が最も多い結果となりました。次いで「交流施設の整備」、「どの地域にも移動しやすい広い道路などの整備」となっています。

このことから、3地域のつながりを強化するためには、公共交通の充実を中心に、交流施設や道路整備といった移動・交流のしやすい環境づくりが重要だと考えられます。

N=234



※各回答者は最大2項目まで選択（複数回答）